

## [COMMUNION]

WEB:<http://www.nskk.org/tokyo/index.html>  
 E-mail:comm.tko@nskkn.org  
 PHONE:03-3433-0987  
 FAX:03-3433-8678  
 Diocese Office

 中高生キャンプ特別号  
 第18号 (通巻1253号)

2014年9月23日  
 編集：広報委員会  
 委員長：渡辺康弘  
 日本聖公会東京教区  
 港区芝公園3-6-18



8月18日から21日までの4日間、群馬県水上の日本バブルホームにて2014年度東京教区夏の中高生キャンプが開催されました。中高生17名、青年スタッフ6名、引率スタッフとして太田信三聖職候補生、チャプレンとして上田亜樹子司祭、以上の総勢25名が大自然の中で共に過ごし、同じ時を分かち合いました。

今年度のキャンプテーマは「向き合う」。このテーマの下に14のプログラムが構成されました。一つのテーマについてお互いの考えや想いを話し合う「分かち合い」、「みことばの時間（聖書研究）」、大自然を感じる「ハイキング」、「キャンプファイヤー」、「天体観測」。最後には全員で準備して捧げる「聖餐式」などがありました。

このキャンプを通して自然、人間、時には自分と：その他様々なものとじっくり「向き合う」4日間になったのではないのでしょうか。



## テーマ「向き合う」

今年度のキャンプテーマは「向き合う」でした。多くのことを考える時期である中高生ですが、その一方で多くの課題に追われる日々の中で何かと「向き合う」という時間を持つことが難しい時期でもあります。また、普段属するコミュニティの中で他人と意見が違うことを恐れ、大多数の意見を正解としてそれに自らを合わせようとする傾向が強い時期であると私たちは感じていました。

「向き合う」という行為は私たちに新たな視点を与え、そして、その行為は答えを求めることがすべてではないと教えてくれることがあります。

「向き合う」とはどういうことか私たちは中高生とともに分かち合い、また体感・体験したいと思いこのテーマを設定しました。

そして、このキャンプテーマをもとにすべてのプログラムに「〜と向き合う」という小テーマを設定し、常に「向き合う」を意識しながら4日間を過ごしました。





キャンプリーダー  
山崎健吾

スタッフとしてキャンプの準備を進める中で「中高

生一人一人に大きな恵みを持って帰って欲しい。」という気持ちが大きくなっていました。その気持ちが大きくなる一方で、中学生に自分たちの思いが届くのかという不安もキャンプが近づくにつれて大きくなりました。

そのような思いを胸にキャンプを迎え、その四日間はあつという間でした。「向き合う」というテーマを設定し、中学生にじっくりと「向き合う」時をこのキャンプで持つてほしいという思いであったにも関わらず、刻々と進んでいくキャンプの間の中で私自身が何かと「向き合う」ことができていると感じました。

キャンプが終わる四日間を振り返ってみると、私たちの思いをはるかに超えて中学生自身一人一人が何かと「向き合う」キャンプとなっていたと思います。そのような中学生の姿から私の方が恵みをもたらして東京へと帰ってきたキャンプでした。

### 青年スタッフ感想

単に楽しいだけでなく色々なことに気付かされるキャンプでした。「向き合う」ことにとっても疲れましたが、それ以上によいものを得ることができました。

小林 忠正

向き合うことで向き合うことの本質が見えてきた、そんなキャンプでした。一緒に向き合ってくれた参加者の皆、支えてくれたすべの方々に感謝します。

下条 あすか

二十五名が出会い、共に過ごし、「向き合う」ことでキャンプという輪が形になったと、最後の夜に火を囲んだ時に実感しました。

沼原 類

懸命に過ごす中で、気が付いたらたくさんの恵みを受けていました。このキャンプで出会えた人と向き合う機会を持てたことに感謝しています。

平野 多希

「向き合う」というテーマで行った今年のキャンプでした。中学生にとって向き合った経験の一つ、将来向き合うきっかけの一つになれば幸いです。

山口 恵奈



司祭 上田 亜樹子  
課題としての難しさもある中で、

中高生もスタッフも本当によく頑張つて「楽しく」「意義のある」キャンプをつくりあげました。4日間で、大きく成長された姿を見て感激しています。自分のいのちの意義を認める、嫌いな自分も神さまが先に愛してくださっていることを受け入れる、自分以外のどんな人も漏れなく神さまは大切にされている、そんなことを再確認するキャンプだったのでないでしょうか。

### 聖職候補生

太田 信三

すべてのプログラムに「〜と向き合う」というサブタイトルが付けられた、ひたすら「向き合う」三泊四日。日常から離れた環境ながら、日常のあらゆるものとことごとく向き合うことになる、ある意味過酷なキャンプ。その過程で表れてくる参加者の多面性と変化を目の当たりにする日々は、私たちの想像をはるかに超える神さまの働きを目の当たりにするかのよう、非常にサクラメンタルな時でありました。

### 今年度の参加者

#### 【中学生】

小野朝子、小幡千花、金子英志郎（立教学院諸聖徒礼拝堂）、金澤一心（神田基督教会）、北村恵里、沙田中萌実（神愛教会）、小嶋元、榎原あける、榎原求（聖テモテ教会）、林大耀、牧野悠剛（聖アンデレ教会）、平林瑠子（渋谷聖ミカエル教会）、穂積香菜（三光教会）、溝井ひかり（大森聖アグネス教会）、宮崎真理（立教学院諸聖徒礼拝堂）、本幡明子（聖救主教会）、柳澤光輝（立川聖。パトリック教会）

#### 【青年スタッフ】

キャンプリーダー山崎健吾、小林忠正、平野多希、山口恵奈（立教学院諸聖徒礼拝堂）、下条あすか（浅草聖ヨハネ教会）、沼原類（聖アンデレ教会）

#### 【引率スタッフ】

太田信三聖職候補生（聖アンデレ教会）

#### 【チャプレン】

上田亜樹子司祭（立教女学院）

### 感謝

皆様の温かい応援の声を励みに、そして神様の御恵みの下で中学生キャンプ準備会はこの1年間準備し、無事に夏の中学生キャンプを終えることができました。ご支援、ご協力頂いた教会、聖職や信徒の方々にスタッフ一同より感謝申し上げます。ありがとうございました。

来年度の夏の中学生キャンプについて  
中高生キャンプ準備会は「青年による中高生キャンプを東京教区の夏の恒例行事にすること」「長く続けられる活動にすること」を目標に活動しております。来年度も夏の中学生キャンプを開催するためにスタッフは前年から来年度のキャンプに向けて準備を開始致します。そのために青年スタッフを募集致します。詳細につきましてはお知らせを各教会へお送りする予定です。是非ご覧ください。また、中高生の募集につきましても後日お知らせする予定です。よろしく願い申し上げます。